

## ■今月のメッセージ (2011年3月)

日本銀行富山事務所長  
水上 誠一

ネットを利用した意図的な情報流出が日本社会の深刻な問題になってきているようです。「礼儀正しく」、「職場に対する忠誠心・愛社精神」に満ちているはずの日本人にはあるまじき現実が見えてきました。

こうした問題の原因については、様々な意見があるわけですが、経済・社会情勢の変化とともに、それに対応する心構えの教育が間に合っていない、といった点が考えられます。

まず、経済・社会情勢の変化については、言うまでもなく「日本的」なるものの要素とされてきた「企業別労働組合」、「年功序列賃金」、「終身雇用」の崩壊があります。現状をみると、労働組合の組織率は2割を切り、能力給化で昇給は頭打ち、そして解雇の不安がつきまっています。こうした中で、「忠誠心・愛社精神」はこの3点の保障とセットだったのだ、ということ改めて認めることからスタートしなければならないと思います。

この日本的なるものの崩壊は、企業を自己の存在の拠り所としてきた多くの日本人にとって、大変つらい状況であり、そこでの安住が叶わない中での、名簿業者からの勧誘や新興国企業からの甘い勧誘は、免疫のない病魔に襲われるに等しいことでしょう。

悪夢と言えることは、日本的秩序の崩壊を乗り越えて、日本に新たな成長基盤を構築し、様々なイノベーションを巻き起こすべき今このときに、後ろ向きに糸を手繰られる人が増え、正面から立ち向かう日本人が出てこなくなることです。

ここで踏みとどまるには、相応の情報防衛コストを支払った上で、「情報を尊重し合う公正な競争があつて初めて企業経済が発展するという認識」、「情報流出が起きた場合にどれだけ大きな影響があるかに関する認識」、「貴重な技術に対する正当な評価と報酬に対する意識」といったことを、改めて経営者が自覚し、地道に社員に説いていく必要がありますが、加えてこれから日本経済の担い手になる学生・生徒への教育も真剣に考えるべきでしょう。

これだけ種々の課題が明るみに出てきた「課題先進国日本」(小宮山宏さんの著書名)ですが、逆に言えばこれほど教育のための材料が豊富な国はありません。国の教育政策が追い付くまでの間、親が子に現実と理想をしっかりと伝えていかなければならないのです。

ある研究によると、日本では、世代が下がるに従って(=人生のうち不況を経験している割合が高くなるに従って)、「人生での成功を決めるのは運とコネ」と考える割合が高くなっているそうです。つまり、どんなに勉強して努力してもそれが成功に繋がらない社会というわけです。これでは不正な手段で試験に合格しても、合格した者勝ちという感覚にもなり兼ねません。こうした意識のまま就職されては、本当に日本の未来はありません。

こうした意識が、我々大人たちを観察した結果だとしたら恐ろしいことです。今日からすぐ、課題に果敢に立ち向かう姿を見せていきましょう。